

# 高齢者・要介護(要支援) 認定者の現状

平成26年7月  
函館市保健福祉部

## 目次

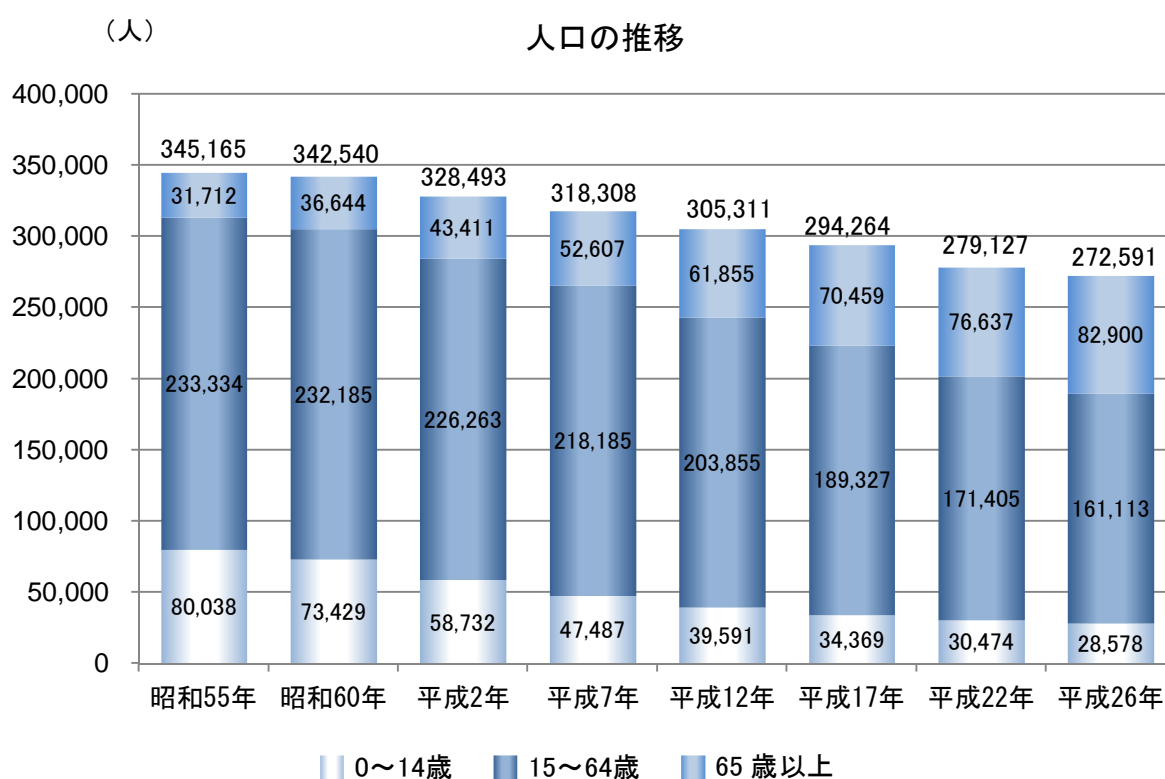
第1節 高齢者の現状.....	1
1 総人口の推移 .....	1
2 年齢別人口 .....	2
3 日常生活圏域別人口の推移 .....	3
4 高齢者人口の推移 .....	4
5 日常生活圏域別高齢者人口の推移 .....	5
6 日常生活圏域別高齢化率の推移 .....	6
7 高齢化率の比較 .....	7
8 高齢者の世帯状況 .....	8
9 日常生活圏域別高齢者の世帯状況 .....	9
第2節 要介護（要支援）認定者の現状.....	10
1 要介護（要支援）認定者数の推移 .....	10
2 要介護（要支援）認定者の割合の推移 .....	11
3 日常生活圏域別の要介護（要支援）認定者数と割合 .....	12

## 第1節 高齢者の現状

### 1 総人口の推移

本市の総人口は、国勢調査によると昭和55年の345,165人をピークに減少傾向にあり、平成22年国勢調査（平成22年10月1日現在）では、総人口は279,127人となり、5年前の平成17年国勢調査と比較すると、15,137人減少しており、全国で第2位の減少数となっています。

一方、高齢者人口（65歳以上の人口）については、介護保険制度の始まった平成12年の61,855人に対し、平成26年6月末には82,900人と14年間で21,045人増加しています。



\* 昭和55～平成22年は国勢調査(昭和55～平成12年は合併町村を含む)、

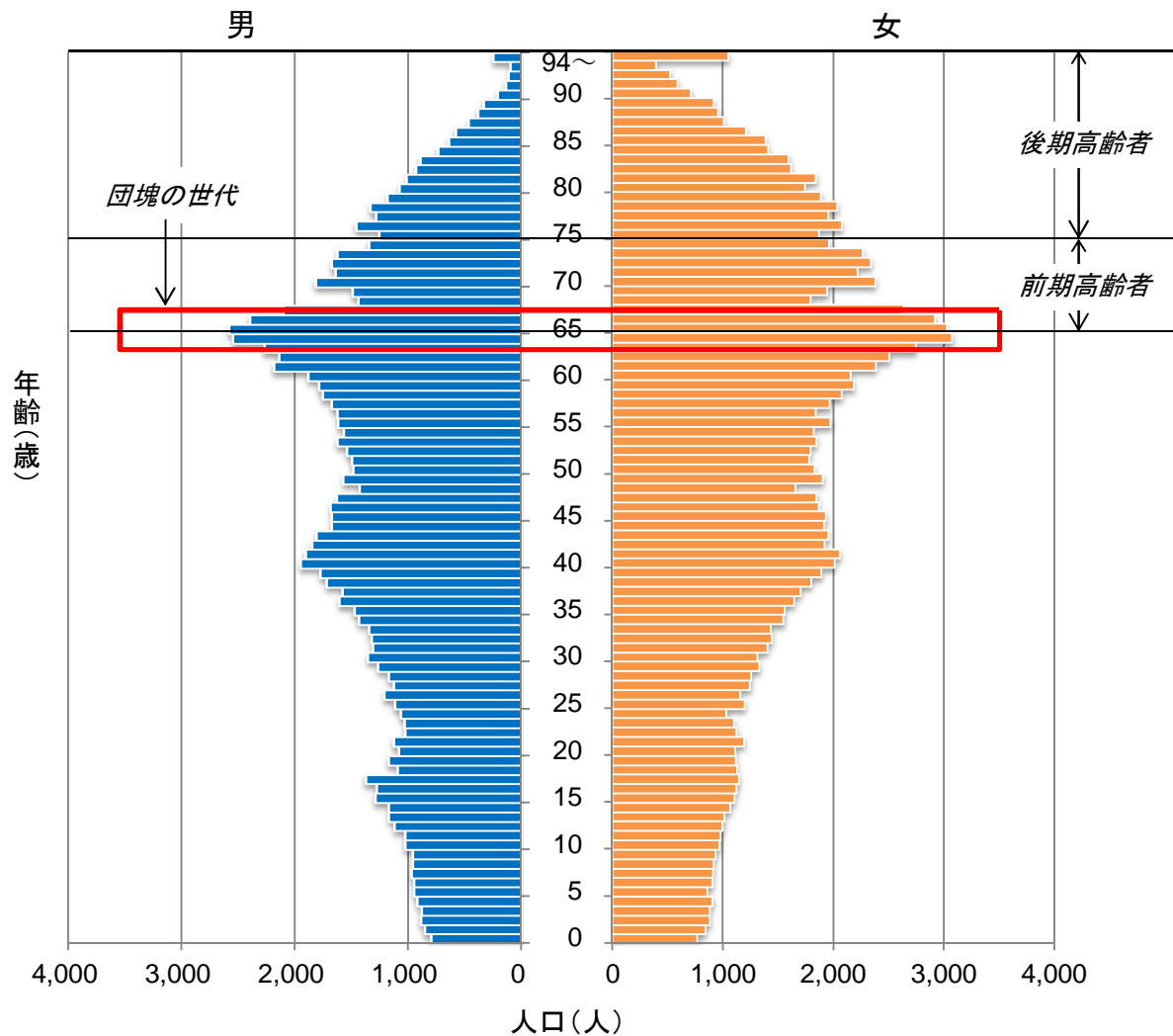
平成26年は6月末日現在の住民基本台帳を基に作成

\* 総人口には年齢不詳者数を含む

## 2 年齢別人口

本市の人口を人口ピラミッドで表すと、団塊の世代が人口のピークを形成していることがわかります。平成 27 年以降は団塊の世代がすべて 65 歳以上となり、今後もさらに高齢者人口が増加すると推測されます。

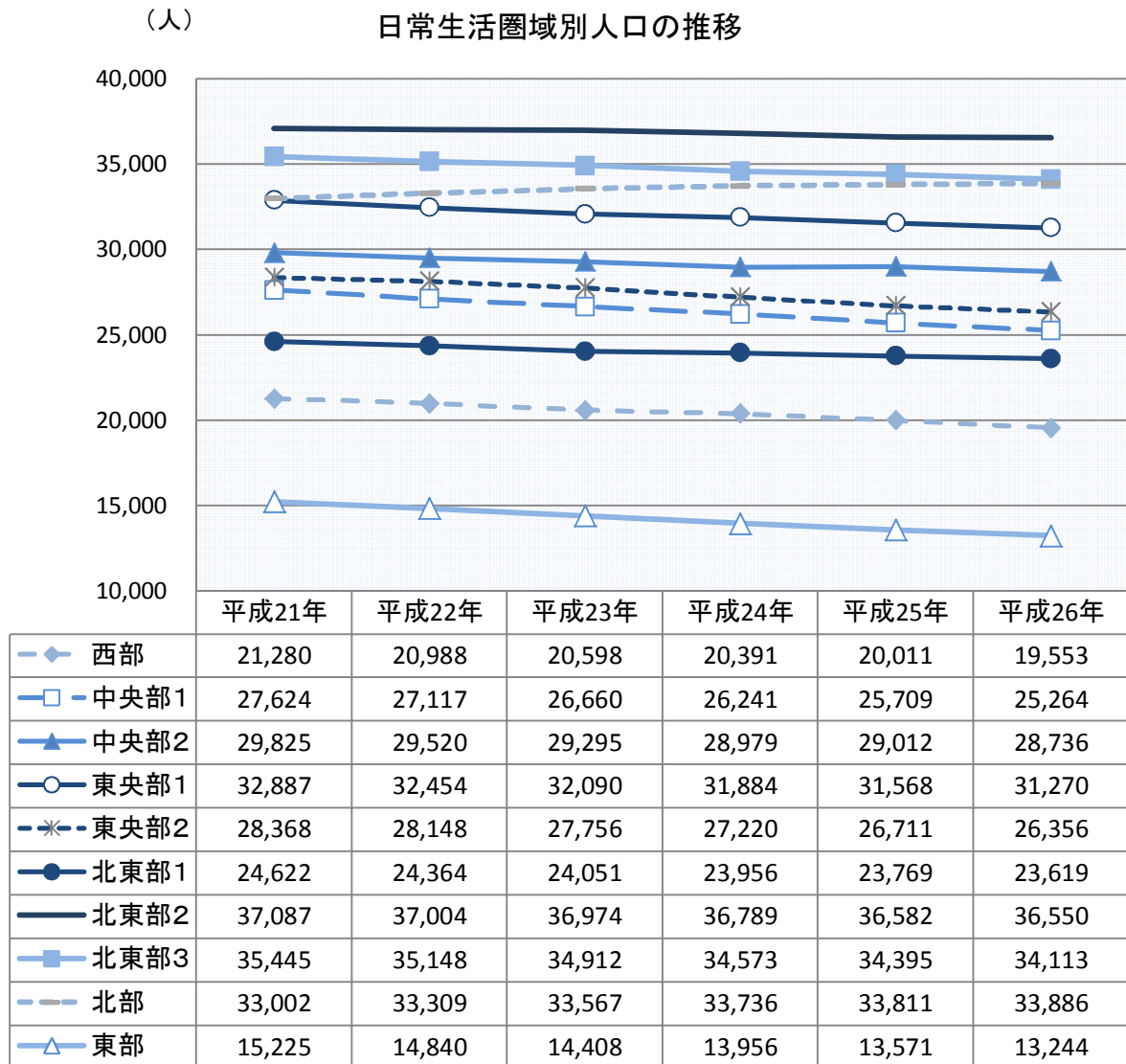
函館市の人口ピラミッド(平成 26 年 6 月末日現在)



\* 住民基本台帳を基に作成

### 3 日常生活圏域別人口の推移

日常生活圏域別に人口の推移をみると、北部地区を除き減少傾向にあります。北部地区については、宅地開発が進められている地域があるため、人口は若干の増加傾向にあります。



\* 住民基本台帳を基に作成(各年9月末日現在。ただし、平成26年は6月末日現在。)

\* 平成21～23年は外国人登録を含む

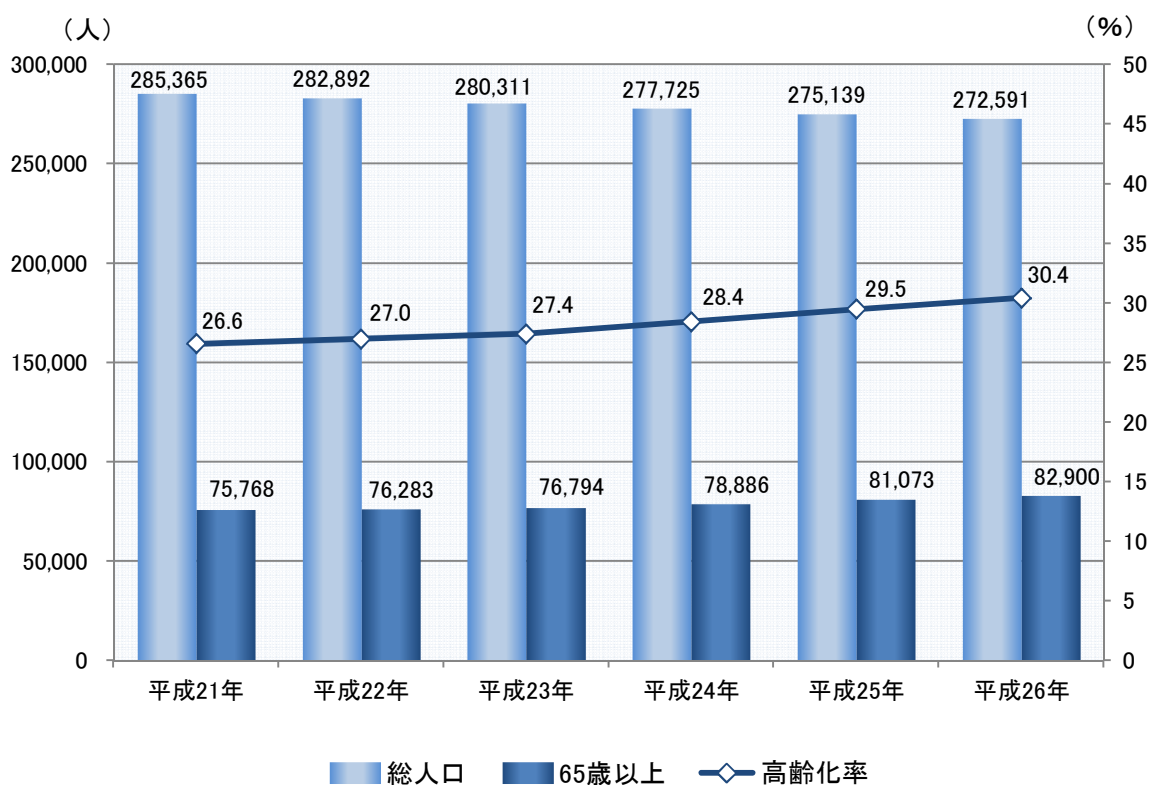
\* 日常生活圏域区分は次期計画における見直し案

#### 4 高齢者人口の推移

過去5年間の人口の推移をみると、総人口は平成21年から平成26年の5年間で12,774人減少しているのに対し、高齢者人口(65歳以上の人口)は、5年間で7,132人増加しています。

本市の高齢化率上昇の背景には高齢者人口の増加に加え、急激な総人口の減少が要因としてあることがわかります。

過去5年間の人口と高齢化率の推移



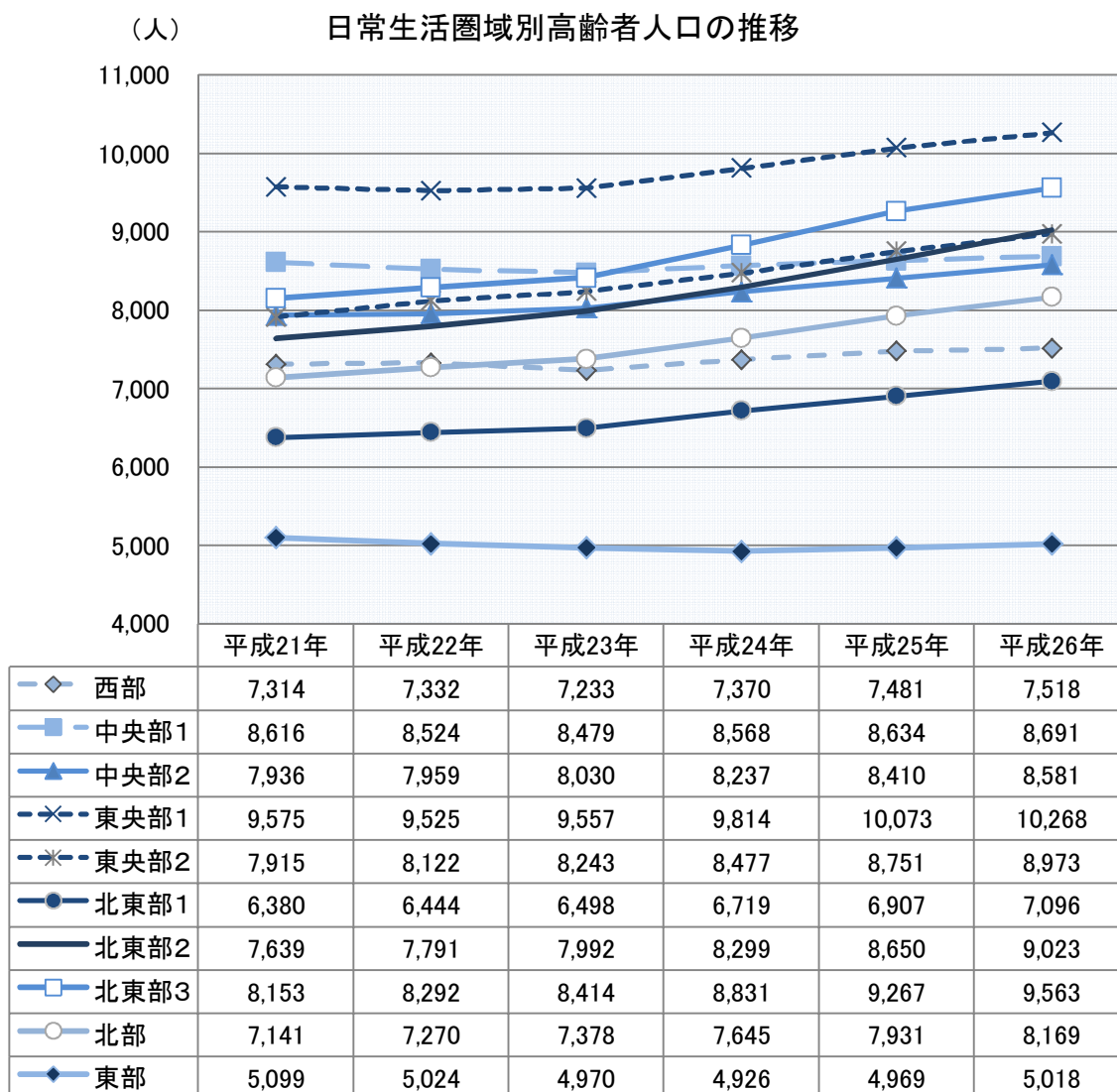
\* 住民基本台帳を基に作成(各年9月末日現在。ただし、平成26年度は6月末日現在。)

\* 平成21～23年は外国人登録を含む

## 5 日常生活圏域別高齢者人口の推移

日常生活圏域別の高齢者人口は、圏域の見直しを行うことにより、東部地区を除く旧市内9地区が概ね10,000人以下に平準化され、地区間における大きな差はなくなります。

圏域ごとの推移をみると、平成21年から23年にかけて一部の地区で減少が見られましたが、近年はすべての地区が増加傾向となっています。



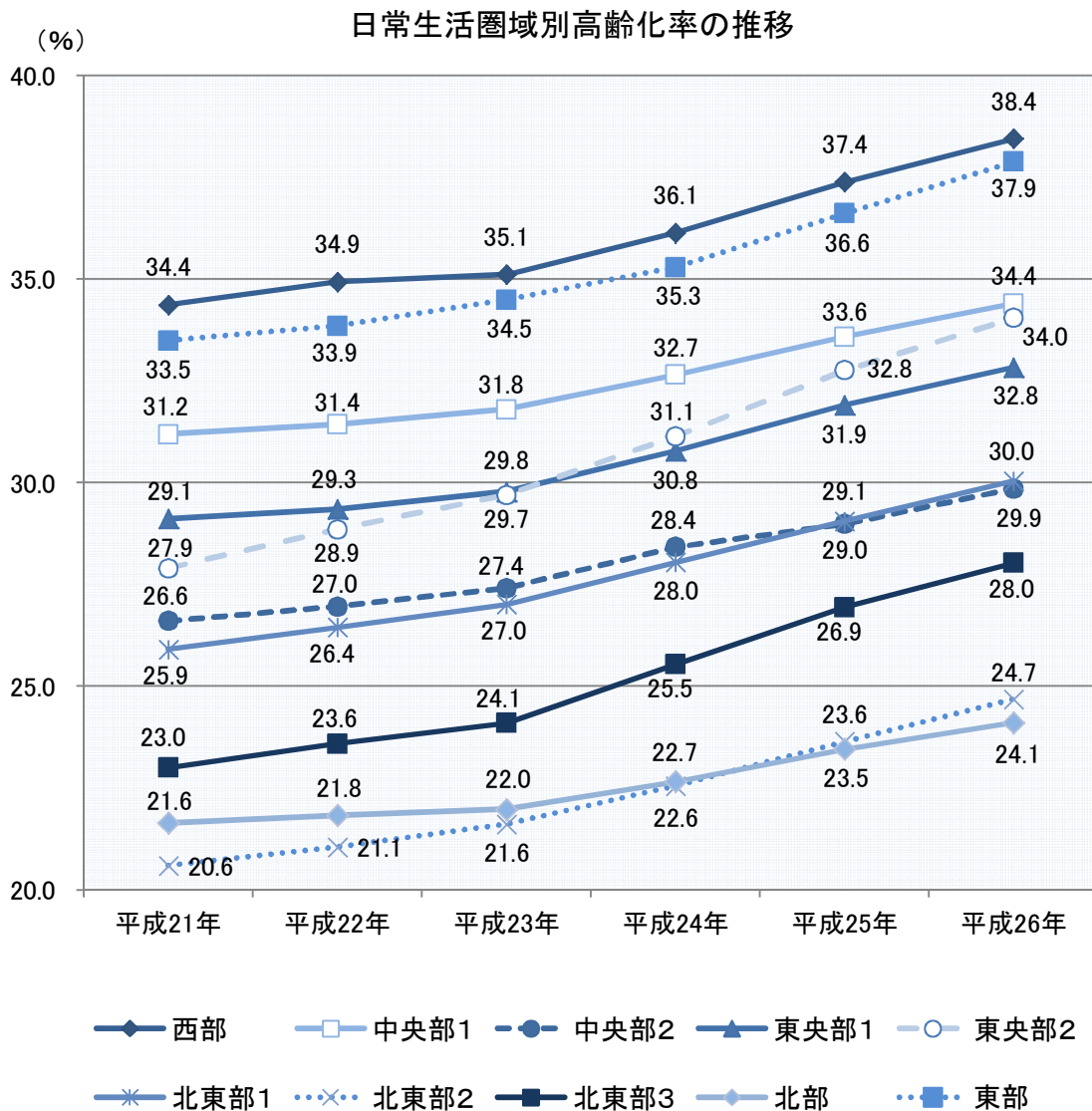
\* 住民基本台帳を基に作成(各年9月末日現在。ただし、平成26年は6月末日現在。)

\* 平成21～23年は外国人登録を含む

\* 日常生活圏域区分は次期計画における見直し案

## 6 日常生活圏域別高齢化率の推移

日常生活圏域別に高齢化率の推移をみると、西部地区が38.4%と最も高く、次いで東部地区の37.9%となっています。一方、北部地区と北東部2地区は25.0%を下回り、全国の高齢化率\*（25.2%）と比較しても低い割合となっています。



\* 住民基本台帳を基に作成(各年9月末日現在。ただし、平成26年は6月末日現在。)

\* 平成21～23年は外国人登録を含む

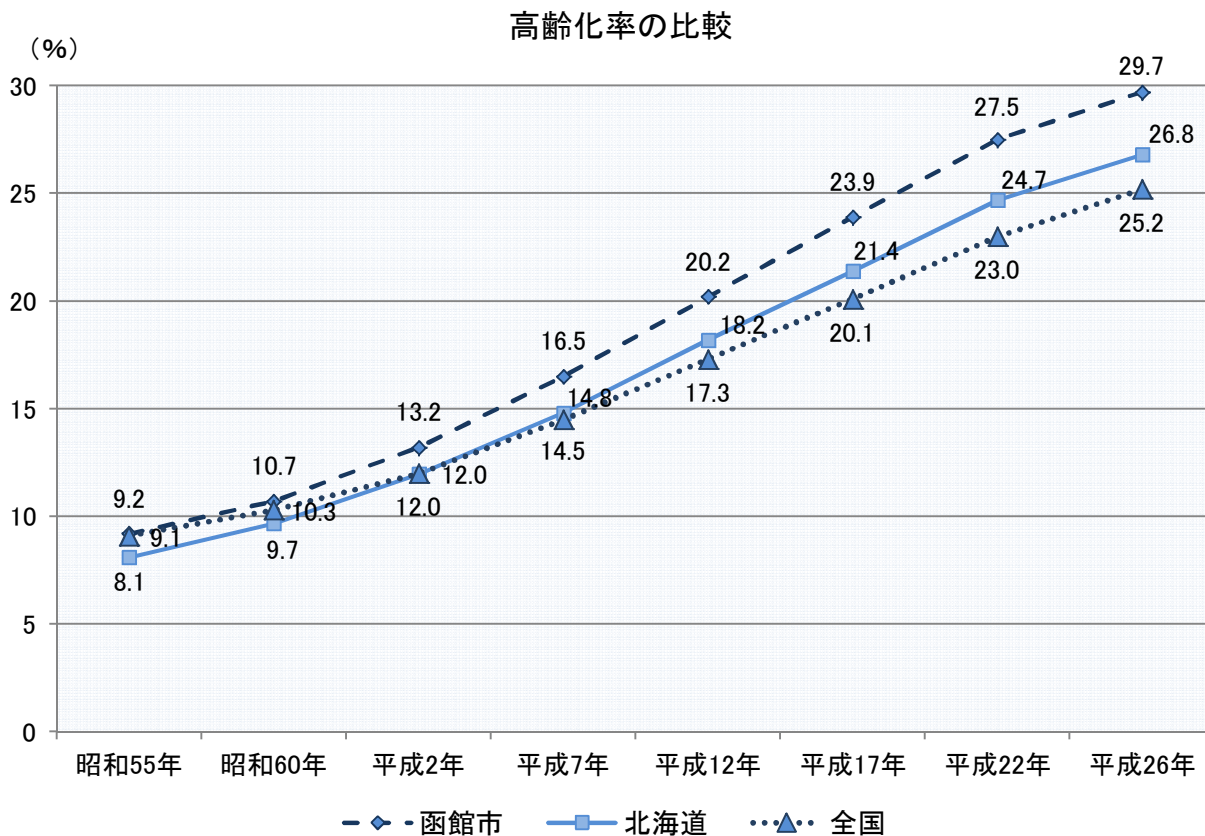
\* 日常生活圏域区分は次期計画における見直し案

\* 総務省統計局の人口推計（平成26年1月確定値）



## 7 高齢化率の比較

本市の高齢化率を北海道、全国と比較すると、昭和55年に北海道、全国とほぼ同じでしたが、平成26年には29.7%と全道の26.8%、全国の25.2%を大きく上回り、高齢化が顕著になっています。



\* 昭和55～平成22年は国勢調査(昭和55～平成12年は合併町村を含む),

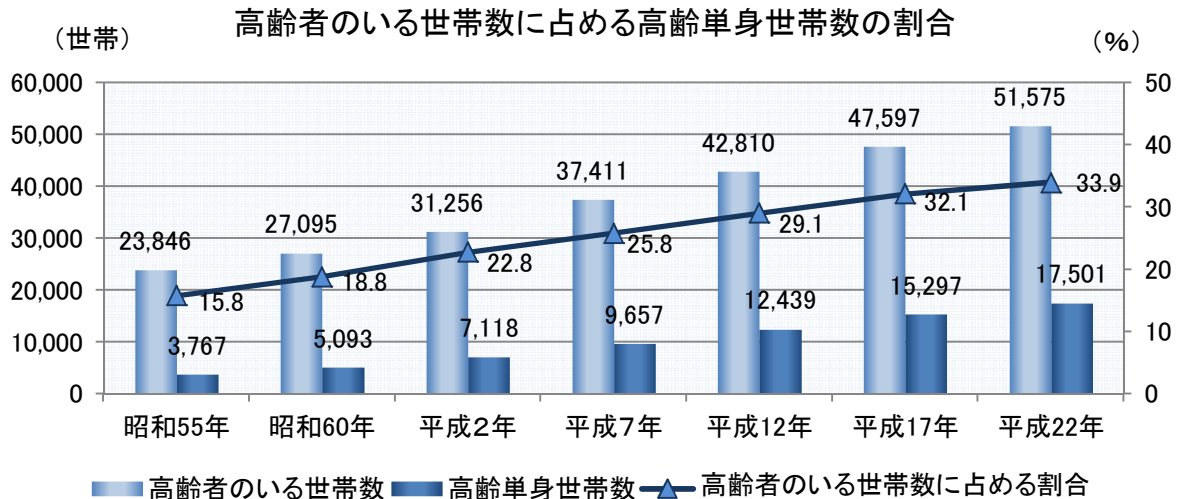
平成26年は以下を基に作成

- ・全国は総務省統計局の人口推計(平成26年1月確定値)
- ・北海道は北海道総合政策部の北海道の市町村, 男女, 年齢5歳階級人口(平成26年1月1日現在)
- ・函館市は住民基本台帳(平成25年12月末日現在)

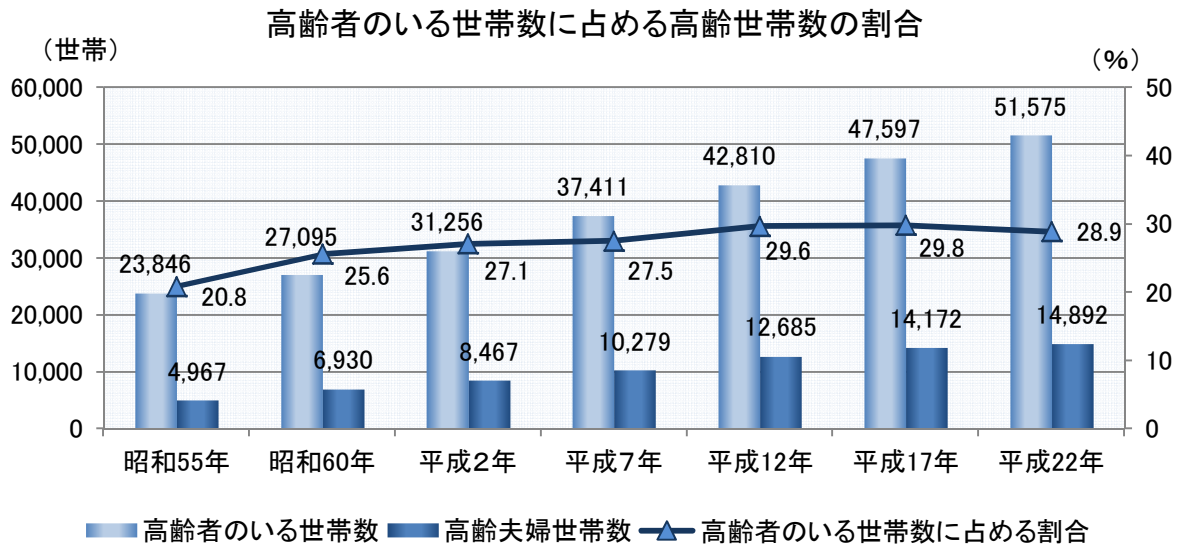
## 8 高齢者の世帯状況

本市の高齢単身世帯数は、平成 17 年に高齢夫婦世帯数<sup>†</sup>を上回り、平成 22 年には 17,501 世帯となっています。

65 歳以上の親族のいる世帯数（高齢者のいる世帯）に占める高齢単身世帯数の割合は 33.9%と、高齢者のいる世帯のうち 3 世帯に 1 世帯がひとり暮らしの高齢者世帯となっており、全国的な傾向<sup>‡</sup>と同様、本市においてもひとり暮らしの高齢者世帯が増加しています。



\* 国勢調査を基に作成(昭和 55～平成 12 年は合併町村を含む)



\* 国勢調査を基に作成(昭和 55～平成 12 年は合併町村を含む)

<sup>†</sup> 高齢夫婦世帯：夫 65 歳以上、妻 60 歳以上の夫婦 1 組のみの一般世帯

<sup>‡</sup> 全国の高齢単身世帯数は、平成 17 年の 386 万世帯から平成 22 年には 479 万世帯に増加

## 9 日常生活圏域別高齢者の世帯状況

平成 22 年の国勢調査における日常生活圏域別の世帯状況をみると、65 歳以上の高齢者がいる世帯数が最も多いのは、東中央部 1 地区で 6,596 世帯となっています。

一方、全世帯数に占める割合をみると、東部地区が最も高く、6 割以上が高齢者のいる世帯となっており、高齢者単身世帯の割合も 13.2%と最も高くなっています。また、最も低い北部地区でも 33.3%となっており、すべての圏域で 3 世帯に 1 世帯が高齢者のいる世帯と、世帯の高齢化が進んでいる状況となっています。

日常生活圏域別世帯の状況

(単位：人、世帯)

圏域	全世帯数 (A)	65 歳以上の親族がいる世帯数(B)					
				高齢者単身世帯(C)		高齢者夫婦世帯 <sup>§</sup> (D)	
		(B/A)	(C/A)	(D/A)			
西部	9,897	4,983	50.3%	1,955	10.7%	1,058	19.8%
中央部 1	13,154	5,931	45.1%	2,602	9.2%	1,206	19.8%
中央部 2	15,209	5,553	36.5%	2,200	8.6%	1,306	14.5%
東中央部 1	15,116	6,596	43.6%	2,628	10.7%	1,613	17.4%
東中央部 2	11,055	5,078	45.9%	1,401	11.8%	1,307	12.7%
北東部 1	11,480	4,488	39.1%	1,553	10.0%	1,147	13.5%
北東部 2	15,944	5,235	32.8%	1,473	8.6%	1,371	9.2%
北東部 3	14,188	5,567	39.2%	1,427	10.7%	1,523	10.1%
北部	14,671	4,884	33.3%	1,506	8.2%	1,197	10.3%
東部	5,242	3,260	62.2%	756	13.2%	693	14.4%
計	125,956	51,575	40.9%	17,501	9.9%	12,421	13.9%

\* 国勢調査を基に作成(平成 22 年)

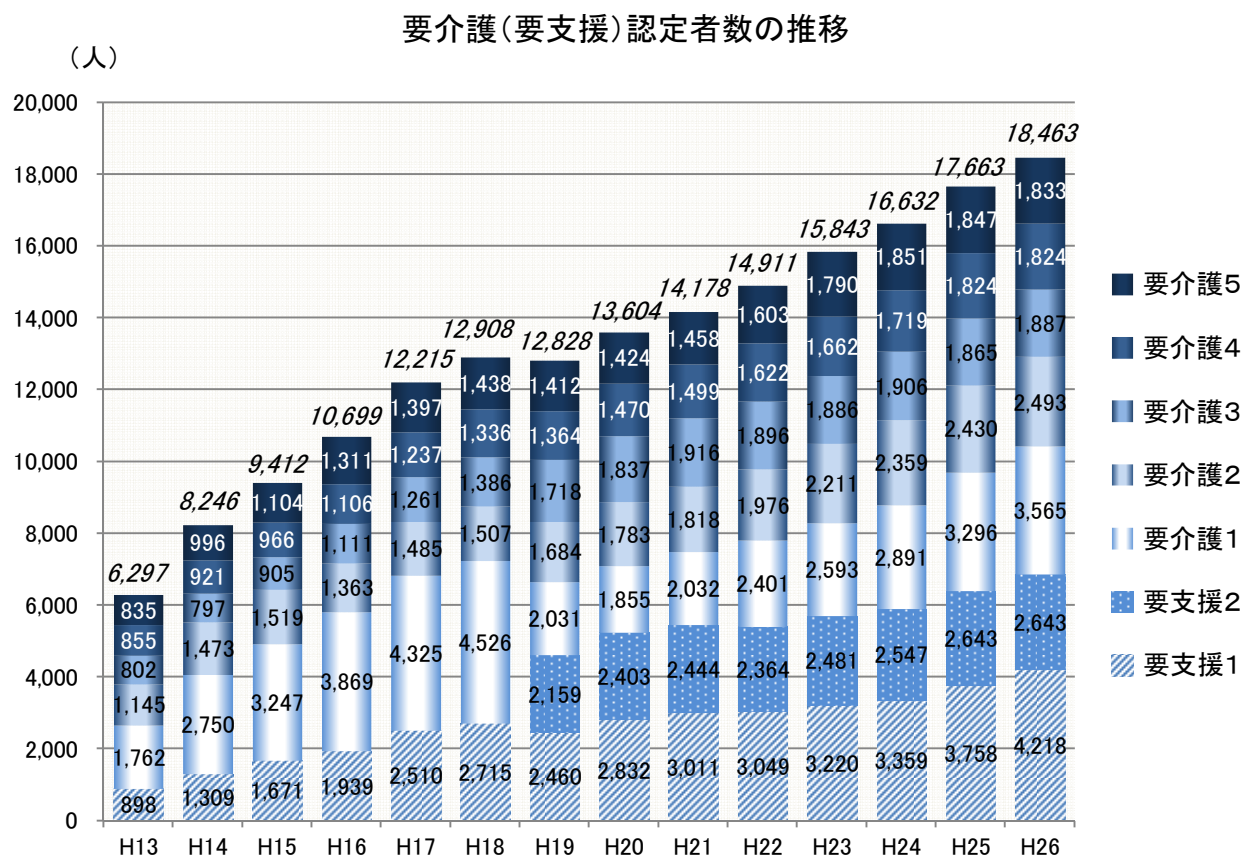
\* 日常生活圏域区分は次期計画における見直し案

§高齢者夫婦世帯：夫婦とも 65 歳以上の夫婦 1 組のみの一般世帯

## 第2節 要介護（要支援）認定者の現状

### 1 要介護（要支援）認定者数の推移

要介護（要支援）認定者数の推移をみると、介護保険制度が始まって以来、増加傾向にあり、平成13年3月末日現在の6,297人から平成26年6月末日現在には18,463人となっており、13年間でおよそ2.5倍に増加しています。



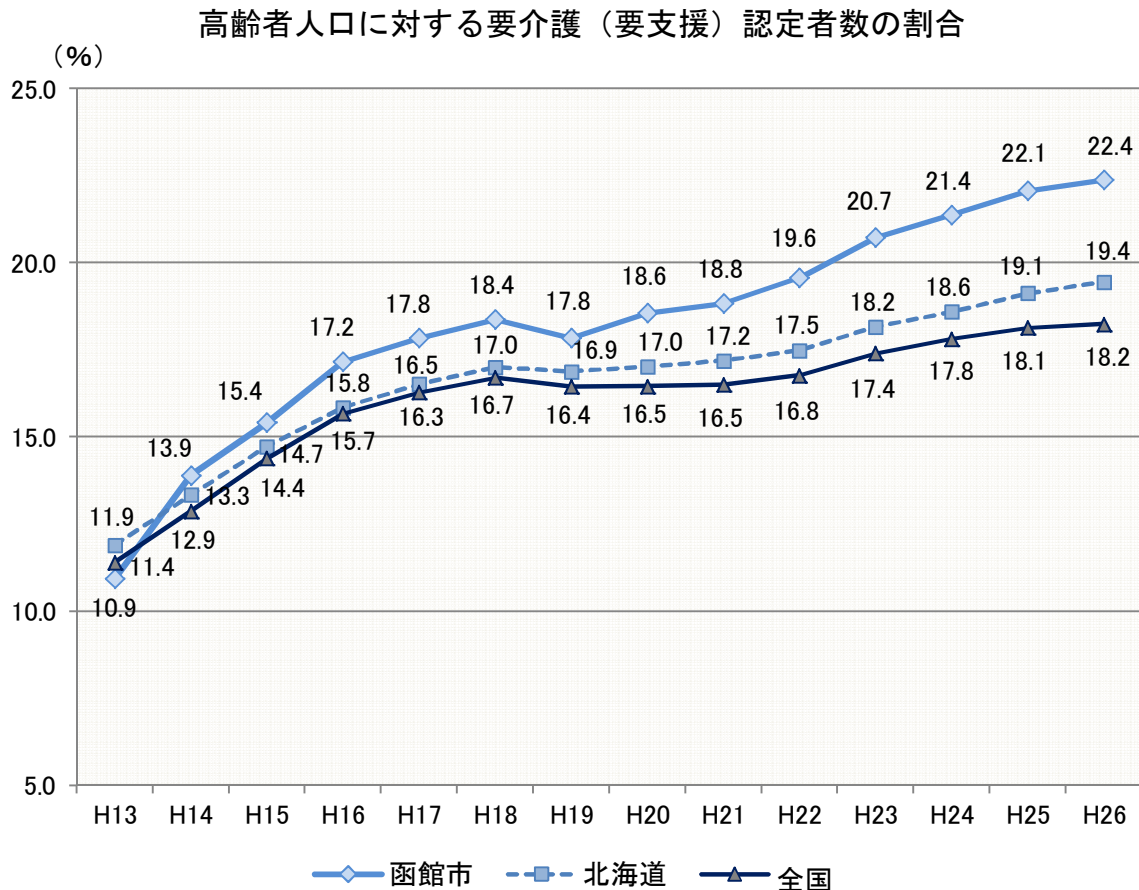
\* 介護保険事業状況報告を基に作成(各年3月末日現在)

\* 認定者数には第2号被保険者で要介護(要支援)認定を受けた者を含む

\* 経過的要介護は要介護1として集計

## 2 要介護（要支援）認定者の割合の推移

高齢者人口（第1号被保険者数）に対する要介護（要支援）認定者数の割合（出現率）\*\*を全国や北海道と比較すると、高い割合で推移しており、平成26年2月末日現在では22.4%となっています。



\* 介護保険事業状況報告を基に作成(各年3月末日現在。ただし、平成26年のみ2月末日現在。)

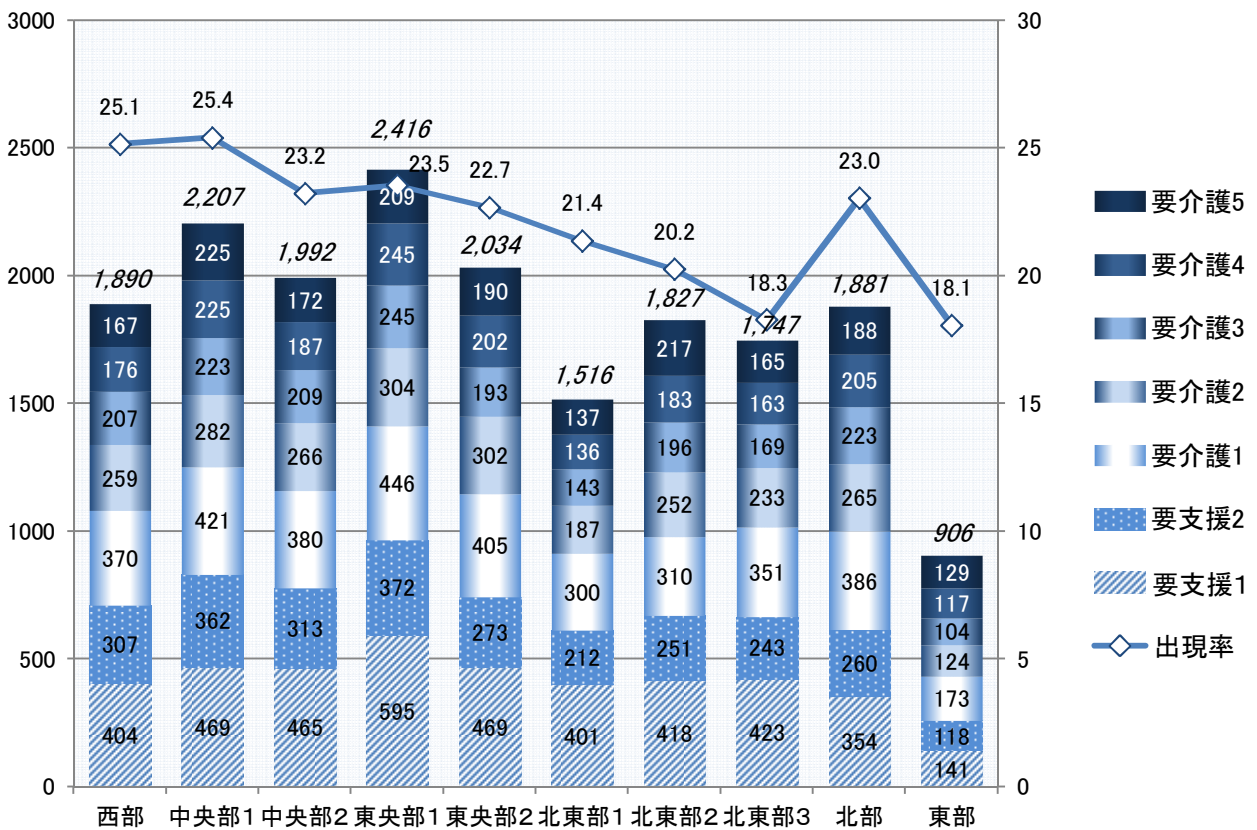
\*\*出現率：高齢者人口（第1号被保険者数）に対する認定者数（第2号被保険者を含む）の割合  
 （参考）要介護認定率：第1号被保険者数に占める認定者数（第2号被保険者を含まない）の割合

### 3 日常生活圏域別の要介護（要支援）認定者数と割合

日常生活圏域別に要介護（要支援）認定者数をみると、高齢者人口が最も多い東中央部1地区が2,416人と最も多くなっています。

高齢者人口に対する認定者数の割合（出現率）をみると、中央部1地区と西部地区が25.0%を超え、高齢者の4人に1人以上が要介護認定を受けている状況になっています。一方、東部地区は18.1%と最も低くなっており、高齢化率が35%を超える西部地区と東部地区<sup>†</sup>の2地区は、市内でも特に高齢化が進んでいる地域ですが、認定者の割合には差があることがわかります。

日常生活圏域別の要介護（要支援）認定者数と出現率



\* 函館市介護保険システムを基に作成(平成26年7月10日現在)

\* 認定者数は函館市の住所地特例対象者数を含まない数値

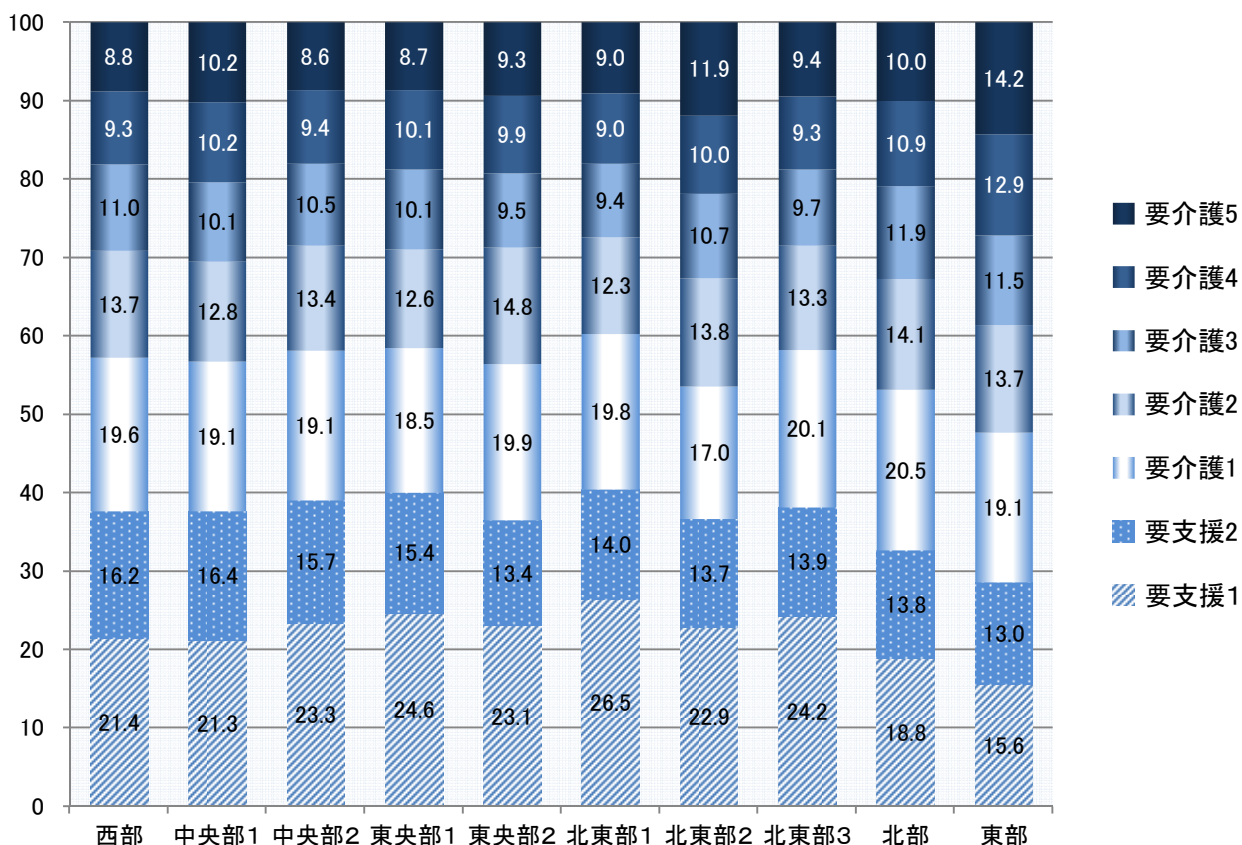
\* 出現率:高齢者人口(平成26年6月末日住民基本台帳)に対する認定者数(第2号被保険者を含む)の割合

\* 日常生活圏域区分は次期計画における見直し案

† 高齢化率は西部地区38.4%、東部地区37.9%(平成26年6月末日現在)

日常生活圏域別の要介護度の割合は下図のとおりとなっています。旧函館市に属する地区では要支援1から要介護1までの軽度者の割合が50%以上となっており、東部地区では要介護度3、4、5といった中重度者の割合が高くなっています。

要介護度別割合



\* 函館市介護保険システムを基に作成(平成 26 年 7 月 10 日現在)

\* 日常生活圏域区分は次期計画における見直し案